

《研究ノート》

明治初期のイエール大学日本人留学生 —田尻稻次郎が学んだカリキュラムを中心に—（2）

北 口 由 望
(大学史資料課)

はじめに

1. 大学史資料課が保管するイエール大学所蔵資料について
2. 山川健次郎と津田静一
3. 田尻稻次郎の入学試験
4. 学部1年生のカリキュラム (以上、第6号)
5. 学部2年生のカリキュラム
6. 学部3年生のカリキュラムと選択科目の設置
7. 学部4年生のカリキュラムとサマナー教授
8. 法学科のカリキュラムと相馬永胤
9. 哲学文学科大学院のカリキュラム

おわりに (以上、本号)

はじめに、『専修大学史紀要』第6号（2014年3月）掲載の「明治初期のイエール大学日本人留学生—田尻稻次郎が学んだカリキュラムを中心に—（1）」について、確認したい。本稿末に付した表は田尻と同時期にイエール大学（Yale College）¹に在籍した日本人留学生の一覧である。本稿は、専修大学創立者の一人で、日本に初めて「財政学」をもたらした田尻を中心に、当時の日本人留学生がどのようなカリキュラムで授業を受けていたのかについて明らかにすることを目的とする。

当課が保管するイエール大学所蔵資料の核をなすのは『要覧（Catalogue）』であり、学事暦、教員・学生の名簿、ステイトメント（General Statement、各学科の専攻概要や授業カリキュラムなど）が記載されている。山川健次郎と津田静一はイエール大学シェフィールド科学学部（Sheffield Scientific School）に在籍し、土木工学を専攻した山川は日本人で初めて修業年限を全うして卒業し、帰国後に東京大学物理学教授に就任した。田尻が学部に入學したのは1874年（明治7）9月で、入学試験ではラテン語やギリシャ語といった古代言語に数学、英文法、地理学の知識が必要とされた。1年生のカリキュラムによれば、2学期以降に歴史学や植物学、修辞学、英作文演習が始まっているが、1年を通して学ぶ科目はあくまでも古代言語と数学であった。

5. 学部2年生のカリキュラム

1874年（明治7）9月にイェール大学に入学した田尻稲次郎は、翌年6月に学部1年生の課程を修了した。『要覧』の学事暦によれば、2年生（Sophomore Class）となる1875年は1学期が9月16日から12月23日まで、2週間の冬期休暇を経て、2学期が1876年1月6日から4月6日まで、2週間の春期休暇を経て、4月20日より3学期が始まり、6月29日に卒業式が行われている。

1年生では2学期以降、ギリシャ語やラテン語といった古代言語や数学のほかに歴史学や植物学、修辞学、英作文演習の科目が始まっていたが、2年生ではどのようなカリキュラムが採られていたのか。具体的な授業科目についてみていきたい。

FIRST TERM.-*Greek*-Six Orations of Demosthenes. *Latin*-Satires and Epistles of Horace. *Mathematics*-Loomis's Trigonometry; Loomis's Analytical Geometry; Loomis's Conic Sections. *Rhetoric*-Lectures on Elocution, with practice. Declamations. Lectures on Composition. Composition. Criticism.

SECOND TERM.-*Greek*-Prometheus of Æschylus; Xenophon's Memorabilia, one book. *Latin*-Cicero *de senectute* and *de officiis*; *Captivi* of Plautus. *Mathematics*-Loomis's Trigonometry. *Rhetoric*-Declamations. Compositions.

THIRD TERM.-*Greek*-Antigone of Sophocles; Plato's Apology of Socrates and Crito. *Latin*-Satires of Juvenal. *Mathematics*-Peck's Mechanics. *Rhetoric*-Declamations. Compositions.²

【訳文】1学期 - ギリシャ語はデモステネスの演説6つ。ラテン語はホラティウス『風刺詩』『書簡詩』。数学はルーミスの三角法・分析幾何学・円錐。修辞学は練習を兼ねたエロキューション（演説法）の講義、デクラメーション（雄弁術）、作文の講義、作文、批評。

2学期 - ギリシャ語はアイスキュロス『プロメテウス』、クセノフォン『メモラビリア』1冊。ラテン語はケケロ『老年論』『義務論』、プラウトゥス『捕虜』。数学はルーミスの三角法。修辞学はデクラメーション、作文。

3学期 - ギリシャ語はソポクレス『アンティゴネ』、プラトン『ソクラテスの弁明』『クリトン』。ラテン語はユウェナリス『風刺詩』³。数学はペックの機械学。修辞学はデクラメーション、作文。

ギリシャ語は、古代ギリシャ最大の弁論家デモステネスで始まり、精巧な彼の文章はケケロほか後世に大きな影響を与えたといわれる。2学期に始まるアイスキュロスは「悲劇の父」と称されるギリシャ悲劇詩人で、主人公の英雄的な姿が描出される文体は格調高く雄勁であるが難解であり、一方のクセノフォンの文体は平明で複雑な修辭的技巧を用いな

いために読みやすく、古典ギリシャ語の散文の範とされている。『メモラビリア（ソクラテスの思い出）』は師であるソクラテスの追憶から生み出された著作である。クセノフォン同様にソクラテスの弟子であったプラトンはアリストテレスと並ぶ古代ギリシャ最大の哲学者で、『ソクラテスの弁明』『クリトン』を含む対話篇など、文学的に傑出したものが多い。同じく3学期のソポクレスは『オイディプス王（Oedipus Tyrannus）』の作者として知られる悲劇詩人で、『アンティゴネ』はオイディプス王の娘・アンティゴネが主人公の作品である。

ラテン語は、1年生では『カルミナ』で終わり、2年生は同じく詩人ホラティウスの『風刺詩』と『書簡詩』で始まる。『書簡詩』は人生哲学や文学を論じた随想詩で、とりわけ有名な『詩論（Ars Poetica）』は詩学と修辞学の入門書として尊重された。2学期のキケロはギリシャのデモステネスと並ぶ弁論術の双璧と称されるローマ随一の雄弁家で、彼の文章はラテン語散文の典範とされ、後世への影響も大きく、『老年論』『義務論』の哲学的著作のほか、『弁論家論（De Oratore）』など一連の修辞学書がある。プラウトゥスは日常会話に近い口語的なラテン語で描写する喜劇作家で、『捕虜』は誘拐された息子との奇跡的な邂逅が描かれている。3学期のユウェナリスはローマ帝政期の風刺詩人で、『風刺詩』はホラティウスのそれに比べて毒舌がこもり、適格な観察力と巧みな修辞的手法が用いられている。

数学は1年次同様にイエール大学の自然哲学・天文学教授だったルーミス（Elias Loomis）の教科書が用いられている。3学期の機械工学のベック（William G. Peck）について、1869年に刊行されたデイヴィス（Charles Davies）との共著“*Mathematical Dictionary and Cyclopeda of Mathematical Science*”は、数学の辞書として明治時代の日本において相当広く使われていた書物であるという⁴。

修辞学は通年でエロキューション（演説法）やデクラメーション（雄弁術）、作文が組み込まれ、定期的のエロキューションの授業があり、時期によっては週に1度、修辞学の教授と同級生たちの前でデクラメーションの練習が行われた。また、英作文の演習は1年生では3学期に週に1度であったが、2年生では通年の必修科目となっている。

6. 学部3年生のカリキュラムと選択科目の設置

1876年（明治9）、田尻が3年生（Junior Class）に進級する年次にイエール大学ではそれまでの3学期制から2学期制に変更し、3年生と4年生に選択科目の提供を開始した。

『要覧』の学事暦によれば、1学期は1876年9月14日から12月21日まで、3週間の冬期休暇を経て、1877年1月11日より2学期が始まり、3月28日からイースターを含んだ8日間の春期休校をはさんで、6月28日に卒業式、11週間の夏期休暇を経て、9月13日

に次年度の新学期が始まる。以前に比べて、3学期分が2学期に組み込まれ、春期休校を前後に、2学期が上半期と下半期に分けられた。改正されたばかりの3年生のカリキュラムは以下の通り。

FIRST TERM—*Physics*—Ganot's *Physics*. *German*—Whitney's *Grammar and Reader*; *German Composition*. *English*—Shakespeare's *Macbeth*; Craik's *History of English Literature*; *Forensic Disputations*. *Chemistry*—Barker's *Chemistry*; *Lectures*.

For optional studies (*Latin, Greek, Mathematics, French*) see page 54.

SECOND TERM—*Natural Philosophy*—Ganot's *Physics*. *Lectures*. *English*—*Recitations*. *Forensic Disputations*. *German*—Whitney's *Grammar and Reader*; *German Composition*. *Zoology*—Huxley's *Physiology*. *Lectures*. *Laboratory Practice*. *Astronomy*—Loomis's *Astronomy*, to Chapter xii. *Logic*—Jevons's *Logic*.

For optional studies (*Latin, Greek, Mathematics, French, Anglo-Saxon, Zoology*) see page 54.⁵

【訳文】1学期 - 物理学はガノーの物理学。ドイツ語はホイットニーの文法とリーダー、ドイツ語作文。英語はシェイクスピア『マクベス』、クレイクの英文学史、学術討論。化学はバーカーの化学、講義。

選択科目（ラテン語、ギリシャ語、数学、フランス語）は54頁参照。

2学期 - 自然哲学はガノーの物理学、講義。英語はレシテーション（暗誦）、学術討論。ドイツ語はホイットニーの文法とリーダー、ドイツ語作文。動物学はハクスレーの生理学、講義、実験演習。天文学はルーミス『天文学』をチャプター12まで。論理学はジェヴォンズの論理学。

選択科目（ラテン語、ギリシャ語、数学、フランス語、近代英語、動物学）は54頁参照。

ドイツ語のホイットニー（William D. Whitney）は、イエール大学でサンスクリット語と歴史言語学の教授を務めていた。ビアーズ教授（Henry A. Beers）が担当した英文学史で用いられたのは、“*A Manual of English Literature, and of the History of the English Language (1871)*”などの著書があるクレイク（George L. Craik）と考えられるが、詳細は不明である。シェイクスピアの『マクベス』は四大悲劇のひとつで、スコットランドの伝説的歴史の一場面が描かれている。

自然哲学の担当はルーミス教授で、ガノー（Adolphe Ganot）はフランスの物理学者。前述のペックが彼の著作を英訳した“*Natural Philosophy*”は、大学レベルの本格的なものとなりやすく簡約したものの2種あり、明治初期の日本ではそれぞれ「大ガノー」

【表1】1876-77年における3年生の選択科目と学生数

	フランス語	数学	ラテン語	ギリシャ語	歴史学	生理学	近代英語
1学期	91	28	—	10	7	—	—
2学期上	85	14	17	13	—	—	—
2学期下	54	8	13	11	—	40	6

※Yale College in 1877, June, 1877, p.5より作成

「小ガノー」と称されていた。化学はライト教授（Arthur W. Wright）が担当した。イエール出身のバーカー（George F. Barker）は母校などで教えたのち、ペンシルヴァニア大学（University of Pennsylvania）の物理学教授に就任、著書の“*Physics Advanced Course (1892)*”は、当時のアメリカで標準的なテキストとなったという⁶。動物学の担当は指導教師のサッチャー（James K. Thacher）。ハクスレー（Thomas H. Huxley）とはイギリスの生物学者で、ダーウィン（Charles Darwin）の進化論擁護者として知られた。論理学のジェヴォンズ（William S. Jevons）はイギリスの経済学者で、はじめに数学を軸に論理学や科学方法論上の業績をあげ、更に経済学へと展開させた近代経済学者の先駆者であるという⁷。

3年生では自然科学、英語やドイツ語といった近代言語が通年の必修となり、2年生まで重点的に学んでいた古代言語と数学が選択科目となっている。物理学や化学、地質学などの自然科学は自然神学に通じる科目でもあった。この年より必修科目に若干の緩和が行われ、3年生と4年生の午前は必修科目に、水・土曜日をのぞく週4日の午後が選択科目にあてられている。2年生と3年生の終わりにそれぞれ次年度の選択科目を申請する仕組みとなり、変更は基本的に年次始に許された⁸。

1876年度に選択科目として用意された学問は、Philology（言語学）、History and Political Science（歴史学・政治学）、Mathematics and Astronomy（数学・天文学）、Molecular and Terrestrial Physics（分子地球物理学）、Natural Science and Geology（自然科学・地質学）の5つのグループに分けられていた。3年生の選択科目別学生数は【表1】の通りである。

3年生の選択科目が限られているなかで、設定されていない歴史学と生理学が表の項目に含まれているが、必修科目に関する事前の試験に合格すれば、先んじて選択科目を追加することができたためであろうか。田尻が師と仰ぐこととなるサムナー教授（William G. Sumner）の担当科目が3年生の選択科目に設定されておらず、田尻本人が言及した史料も残されていないため詳細は不明であるが、帰国後にフランスの財政学者であるボリユー（Paul Leroy Beaulieu）の著作を翻訳すること、最も多くの学生が選択していることから、ここではフランス語を含む言語学の内容について確認しておく。

I, PHILOLOGY

1. ANCIENT LANGUAGES: (a) GREEK, through Junior and Senior years, four exercises a week, with Professor Packard; in Junior year, the *Gorgias*, *Phædo*, and *Symposium* of Plato; in Senior year, the Republic of Plato. (b) LATIN, through Junior and Senior years, with Professor Thacher, four exercises a week; beginning with the *Adelphi* of Terence in Junior year, and with Latin Composition in Senior year. (c) Sanskrit, through Senior year, with Professor Whitney, two double exercises a week.

2. MODERN LANGUAGES AND LITERATURE: (a) FRENCH, through Junior and Senior years, four exercises a week, with Professor Coe; in Junior year, French Composition, Modern French Comedy, Racine; in Senior year, French Composition, Corneille, Molière, Boileau, LaFontaine. A knowledge of the elements of the French language is required of students who choose French as an optional study in Junior year. The examination may be passed at the time of the Sophomore annual examination, or at the beginning of Junior year, and will be upon Chardenal's First French Course. (b) GERMAN, through Senior year, four exercises a week, with Professor Carter; Schiller's *Die Piccolomini* and *Wallenstein's Tod*, Goethe's *Faust*, Lessing's *Laocoon*, German Composition. (c) ANGLO-SAXON, through the second half of the second term of Junior year, with Professor Beers, four exercises a week.

3. LINGUISTICS: Through the first half of the second term of the Senior year, two exercises a week, with Professor Whitney⁹.

【訳文】I. 言語学

1. 古代言語 (a) ギリシャ語は3年次と4年次で週4回、パッカード教授担当、3年次ではプラトン『ゴルギアス』『パイドン』『饗宴』、4年次はプラトン『国家』。(b) ラテン語は3年次と4年次、サッチャー教授担当で週4回、3年次でテレティウス『兄弟』を始め、4年次ではラテン語作文も。(c) サンスクリット語は4年次でホイットニー教授担当、連続授業を週2回。

2. 近代言語および文学 (a) フランス語は3年次と4年次で週4回、コー教授担当、3年次ではフランス語作文、近代フランス喜劇、ラシーヌ、4年次ではフランス語作文とコルネイユ、モリエール、ボワロー、ラ・フォンテーヌ。4年次の選択科目でフランス語を選択する学生にはフランス語初級知識を備えていることが必要。チャーデナルの第1フランス語コースに依る、2年次の年次試験または3年次初頭の試験を通過すること。(b) ドイツ語は4年次、週4回、カーター教授担当、シラー『ピコローミニ父子』『ヴァレンシユタインの死』、ゲーテ『ファウスト』、

レッシング『ラオコーン』、ドイツ語作文。(c) 近代英語は4年次2学期下半期、ベアーズ教授担当、週4回。

2. 言語学 4年次2学期上半期、週2回、ホイットニー教授担当。

選択科目制度に関して、ウィリアムズ大学（Williams College）で長きにわたり歴史学を担当したルドルフ教授（Frederick Rudolph）は、アメリカの大学における「南北戦争後の教育の発展のうち、もっとも創造的かつ破壊的だったのは、選択制カリキュラムの展開」¹⁰だったと指摘する。イエールと同じニューイングランドにあるハーヴァード大学（Harvard University）では、1869年に学長に就任したエリオット（Charles W. Eliot）指導のもとに徐々に必修科目を廃止し、1872年には4年生、1879年には3年生の必修科目をすべて廃止、1897年までに必修科目は1年生の修辭学のみにまで削減された。一方のイエール大学における選択科目制度はポーター学長（Noah Porter）のもとで難産を極め、3年生と4年生のカリキュラムのほとんどを必修科目から解放したのは1883年で、その10年後に選択制が2年生に拡大され、1901年に漸く3年生と4年生の必修科目を全廃している¹¹。

イエール大学の年報によれば、導入1年目の選択科目制は概ね満足で、完全に計画通りに実行されたわけではないが、次年度には若干の変更と教員の補強による実施が期待された。変更した学生もいたが、大部分は当初選択した科目を年間通じて履修し、専任講師たちは以前より熟達させることができたと感じ、予想されていたように専任講師と学生の両方とも勉強量が増えたという¹²。

7. 学部4年生のカリキュラムとサムナー教授

田尻が4年生（Senior Class）となる1877年（明治10）は1学期が9月13日から12月20日まで、3週間の冬期休暇をはさんで、2学期は1878年1月10日から始まる。4月17日から24日まで春期休校で、6月27日に卒業式が行われた¹³。4年生のカリキュラムは以下の通り。

FIRST TERM-*Mental Philosophy*-Porter's Human Intellect. Lectures. *Geology*-Dana's Geology. *Political Science*-Fawcett's Political Economy. Lectures. *Rhetoric*-Compositions. Criticism.

For optional studies (*Latin, Greek, French, German, Sanskrit, English, Mathematics, Astronomy, Mineralogy, European History*) see below.

SECOND TERM-*Natural Theology and Evidences of Christianity*-Lectures. *Moral Philosophy*-Recitations. Lectures. *History of Philosophy*-Schwegler's History. *History*-Hallam's Constitutional History. Lectures. *Evolution and*

Cosmogony–Lectures. *Rhetoric*–Compositions. Criticism. *Political and Social Science*–Recitations. Lectures. *International Law*–Woolsey’s *International Law*. *Elements of Jurisprudence and American Constitutional Law*–Lectures.

For optional studies (*Philosophy, Latin, Greek, French, German, Sanskrit, English, Linguistics, Mathematics, Physics, Meteorology, Geology, Palæontology, American History, Political Science*) see below¹⁴.

【訳文】 1学期 - 精神哲学はポーターの人間の知性、講義。地質学はデーナの地質学。政治学はフォーセットの政治経済学、講義。修辞学は作文、批評。

選択科目（ラテン語、ギリシャ語、フランス語、ドイツ語、サンスクリット語、英語、数学、天文学、鉱物学、欧州史）については以下参照。

2学期 - 自然神学とキリスト教の証明は講義。倫理哲学はレシテイション、講義。哲学史はシュヴェーグラの歴史。歴史学はハラムの憲法史、講義。進化論と宇宙起源論は講義。修辞学は作文、批評。政治社会学はレシテイション、講義。国際法はウルゼイの国際法。法学の基本原則と米憲法は講義。

選択科目（哲学、ラテン語、ギリシャ語、フランス語、ドイツ語、サンスクリット語、英語、言語学、数学、物理学、気象学、地質学、古生物学、米国史、政治学）については以下参照。

地質学者のデーナ（James D. Dana）は1833年イエール大学を卒業し、シェフィールド科学学部創設に尽力するなど科学教育家として有名だったシリマン教授（Benjamin Silliman）の助手やアメリカ合衆国南太平洋探検隊への参加を経て、母校の地質学・鉱物学教授となった。“*A System of Mineralogy (1837)*” や “*Manual of Geology (1863)*” をはじめ多数の著作を残し、明治初期の日本でも教科書として用いられている¹⁵。

フォーセットの政治経済学とは、ヘンリー・フォーセット（Henry Fawcett）の “*Manual of Political Economy (1863)*”¹⁶ と考えられるが、夫人のミリセント（Millicent Garrett Fawcett）も著書に “*Political Economy for Beginners (1870)*” があるイギリスの経済学者である。前者はミル（John Stuart Mill）の1848年の著作である “*Principles of Political Economy*（経済学原理）” の通俗的な解説として普及し、後者もまた経済学入門書として教科書に採用された。

シュヴェーグラ（Albert Schwegler）はドイツの哲学者・神学者で、1848年に発表した “*Geschichte der Philosophie im Umriss*” は英訳され、アメリカでも哲学史入門のテキストとなっていた¹⁷。憲法史のハラム（Henry Hallam）はイギリスの歴史家で、英国憲法史の古典的名著となった “*The Constitutional History of England (1827)*” などを執筆している。

【表2】1877-1878年における4年生の選択科目と学生数

	ラテン語	ギリシャ語	数学	ドイツ語	フランス語	英語	鉱物/地質
1学期	3	1	4	39	16	39	11
2学期上	2	-	1	44	17	41	5
2学期下	2	-	1	44	17	37	-

動物学	天文学	物理学	植物学	欧州史	米国史	精神哲学	政治学
-	3	-	-	17	-	-	-
-	1	10	-	-	17	20	81
3	1	9	4	-	15	17	82

※Yale College in 1878, June, 1878, p.4より作成

国際法のウルゼイ (Theodore D. Woolsey) は前学長で、1846年から1871年まで務めていた。彼の著書 “*Introduction to the study of International Law (1860)*” について、のちに東京帝国大学法学部長となる穂積陳重は「当時我邦に舶来して居つた国際法の書は殆ど「ホイートン」と「ウールジー」の二書に限つて居つたが、「ウールジー」の書は簡明な教科書であつて、比較的によく読まれ¹⁸たと回想している。ホイートン (Henry Wheaton) もまた、アメリカの法律家である。

3年生に比べて、4年生では哲学や歴史学、政治学、法学という人文・社会科学に必修科目の時間を割いていることがわかる。一方、1877年度に選択科目として用意されたのは、Philology (言語学)、Intellectual Philosophy (理論哲学)、History and Political Science (歴史学・政治学)、Mathematics and Astronomy (数学・天文学)、Molecular and Terrestrial Physics (分子地球物理学)、Natural Science and Geology (自然科学・地質学) の6つのグループで、ポーター学長による理論哲学が増設されている。言語を中心としていることは3年生と変わらないが、4年生で選択できる科目にドイツ語やサンズクリット語が加わり、自然科学分野も人文・社会科学分野も多彩に設定された。この年の4年生における選択科目別学生数は【表2】の通りである。

以下、田尻が選択したと考えられる、歴史学・政治学について具体的に確認したい。

III. HISTORY AND POLITICAL SCIENCE.

1. EUROPEAN HISTORY, through the first term of Senior year, with Professor Wheeler, four exercises a week; Hallam's Middle Ages.

2. AMERICAN HISTORY, through the second term of Senior year, with Professor Dexter, two exercises a week; Bancroft's History of the United States.

3. POLITICAL ECONOMY, through the second term of Senior year, with Professor Sumner, two exercises a week.¹⁹

III. 歴史学と政治学

1. 欧州史は4年次1学期、ウィーラー教授担当で週4回、ハラムの中世。
2. 米国史は4年次2学期、デクスター教授担当で週2回、バンククロフトの合衆国史。
3. 政治経済学は4年次2学期、サムナー教授担当で週2回。

欧州史のウィーラー (Arthur M. Wheeler) は歴史学の教授、デクスター (Franklin B. Dexter) は米国史の教授で、図書館を兼務していた。テキストに用いられたバンククロフト (George Bancroft) はアメリカの外交官で、1834年から74年にかけて“*History of the United States*”全10巻を執筆した歴史家でもある。

そして、田尻がのちに「余カ師ソムナ氏」と表現した教授が、政治社会科学を担当したサムナーである。帰国後にポリユエの著書“*Traité de la science des finances (1877)*”を翻訳して刊行する際、田尻はその緒言で「凡ソ理財ノ学ヲ知ラント欲スル者ハポリユエ氏ノ財政論ヲ読マハ其他ハ見ルニ足ラサルナリ」とサムナー教授に言われたとし、「実ニ知言ト云ヘキナリ」²⁰と述べている。

アメリカにおける社会学創設者の一人として知られるサムナーは1840年ニュージャージー州 (New Jersey) 生まれで、田尻の10歳上となる。彼の活動は1890年を前後に2つの時期に分かれ、田尻が学んでいた1870年代当時は社会学者というよりも、経済学者や評論家、経済上の個人主義の代表的な人物として著名であったという²¹。南北戦争中の1863年にイエール大学を卒業したサムナーは、すぐにヨーロッパに渡り、スイス・ドイツ・イギリスで語学・歴史・神学を学んだ。終戦後に帰国し、イエール大学講師や牧師を経て、1872年に教授に就任している。

25年にわたったウルゼイ学長時代の終盤は、アメリカ高等教育が発展するなかで転換期に近づいており、イエール大学では、「Young Yale」と呼ばれる一部の同窓生たちによる、ヤング・イエール運動が展開されていた。ニューヨークを拠点に展開されたこの運動の指導的人物の一人が、ヨーロッパから帰国したサムナーであり、彼らは保守的な大学組織が歴史的に危機的な状況にあることを非難し、教員陣からも真のユニヴァーシティへ発展する提議がなされていたのである。ここで運動の詳細を記述することは避けるが、結果的に、ウルゼイが退任してポーターが学長に就任し、教員陣の刷新が図られた際に教授として着任したのがサムナーであった。

教授としてのサムナーはルールがたくさんある厳格でとりつきがたい人物として知られていたし、学生の名前を覚えることは少なかったが、それでも学生たちの学ぶ意欲を奮い立たせ、卒業するときには大変人気のある教授となっていた。田尻の同級生だった、のちのタフト大統領 (William Howard Taft) は、イエール大学在学中の全課程で学んだほかの誰よりも、自分の知的活動を刺激した教員としてサムナーの名前を挙げている。

1872年に教授として着任する以前、サムナーは1860年代にイエールで講師をしていた際、1年間は数学、2年間はギリシャ語を教えていた。その当時でさえ、既に彼の教室での教え方はほかの先生と明確に異なったという。彼は学生のレシテイション（暗誦）をただ聞いているのではなく、「教授」したのである。例えば、プラトンを扱うときは、学生たちにギリシャ思想の世界全体を見開かせるように教え、翻訳と統語法のドリル学習と同様に、哲学の導入になる授業を行っていたという。

ただし、サムナーは外交的に長けていたわけではなく、耳障りな率直さはしばしば同僚を憤激させていたが、イエール大学をより素晴らしい大学にするために行っていたのである。その一つに、前述した選択科目制の導入がある。カレッジ（学部）より先にグループ選択制を導入したのはシェフィールド科学学部であり、それはサムナーがカレッジで要望していた制度であった。保守的なカレッジについて、ポーター学長は変更を望まない姿勢を示していたが、前述の地質学教授・デーナや数学教授のニュートン（Hubert A. Newton）およびサムナーの説得により、ついに1876年に3年次と4年次における部分的選択制を採用するに至ったのである。

田尻は無事に4年間の学士課程を修了して1878年6月27日に卒業式を迎え、文学士（Bachelor of Arts, B. A.）の称号を取得した。1年生のときに164名だった同級生は、2年次に155名、3年次に137名、4年次の始めに133名と徐々に減り、卒業のときには129名になっていた。

なお、田尻は「明治十一年六月某日」に、当時の駐米公使吉田清成に宛て「財政意見書」なる建白書を提出している。詳細は省略するが、当時の日本における財政上最も緊切な5つの問題（紙幣発行銀行の設定、紙幣、貨幣、税法、公債の整理法）について取り上げて方策を論じており、末尾に記された「野生休業中「ハートフォード」ニ遊バント欲ス。若シ貴答ヲ彼地ニ賜ハラバ幸甚」²²という一文によって、学部を卒業して夏期休暇に入る頃に書き上げたことがわかる。ハートフォード（Hartford）は、大学のあるニューヘイブン（New Haven）から北東約40マイル先にある、同じコネティカット州（Connecticut）の街である。

8. 法学科のカリキュラムと相馬永胤

では、1876年（明治9）から77年まで津田純一が在籍し、入れ替わるように相馬永胤と三浦和夫（のち鳩山姓）が入学したイエール大学法学科（Department of Law）ではどのような授業が行われていたのだろうか。コロンビア法律学校（Columbia College Law School）を卒業して、法学士（Bachelor of Laws, LL. B.）の学位を取得した相馬と三浦は、ともにニューヨークからコネティカット州ニューヘイブンの地に移った。名簿によれば、三浦は法学科大学院コース（Graduate Course）の法学修士課程（Candidates

for the Degree of M. L.)、相馬は同科の特別生 (Special Student not Candidates for a Degree) とある。

彦根藩出身の相馬は田尻と同じ1850年(嘉永3)生まれで、イエール大学に入るときは数えて28歳になっていた。1871年から1873年まで米国留学したのち一度帰国、旧藩主の井伊家より留学資金が支給されることとなり、1874年に再渡米、翌年コロンビア法律学校に入学した。再渡米の際には、井伊家当主直憲の末弟・直達、元彦根藩士石黒努の長男・太郎を伴い、以後、若い二人の面倒を見ながらの留学であった。1856年(安政3)生まれの三浦は、文部省第1回留学生に選ばれて渡米、相馬と同じく1875年にコロンビア法律学校に入学し、法律を学んでいた。

相馬は1877年6月にニューヘイブンに引っ越しているが、この時期にもっぱら行動をともにしていたのが津田純一であった。豊前中津藩士で旧藩の費用で渡米していた津田は田尻が学部2年生の1875年度に哲学文学科 (Department of Philosophy and the Arts) の特別生、翌年度は法学科の学士課程 (Undergraduate Course) 1年生に在籍していた。「相馬永胤日記」²³によれば、相馬は津田とともに6月27日の法学科卒業式に出席し、8月18日には法学科長のウェイランド教授 (Francis Wayland) を訪問し、法学科の学習課程について尋ねた。9月13日に始まった大学でクラス編成について聞き、自分は1年生 (Junior Class) と2年生 (Senior Class) 両方の「some special studies」を聞くつもりだと日記に書き留めている。

当時の法学科は1872年に完成した裁判所の建物内に位置し、田尻の在籍するカレッジと異なり、3学期制であった。相馬の記録によれば、9月13日に始まっているが、『要覧』によれば、秋期が1877年9月の最終木曜日からクリスマス前の木曜日まで、3週間の休暇を経て、冬期が1878年1月から3月の最終木曜日まで、春期が4月の第2木曜日から6月の卒業式までとある。また、この年の在籍者は三浦を含む大学院の法学修士課程が5名、法学博士課程 (Candidate for Degree of D. C. L.) が1名、学士課程の2年生が27名、1年生が24名、相馬を含む特別生が2名であった。

学士課程の修業年限は2年で、通常の授業は標準的な教科書での講義とレシテーションからなり、後者は口頭での説明を伴う。学生は検討中の題目について導かれる事例について頻繁に参照させられ、次の授業でそれらに関する質問の準備が必要となり、全てのレシテーションにおいて自由に質問することが奨励されている。教授が裁判官に、学生が弁護士に扮する模擬裁判は毎週開催され、学生は両立できることを前提に、追加料金なしで他学科の講義に出席することができ、料金を支払えば哲学文学科大学院の特別課程の授業にも出席することができた。

学士課程1年生への入学資格は18歳以上で、高等学校の資格証明を取得していない場合には試験が用意された。2年生は19歳以上で、1年以上法律を学び、またはほかの法

律学校で6ヶ月以上学んだ卒業生、また未卒であれば2年以上法律を学んだか、1年以上法律学校で学んだか、試験に合格するかなどの条件があった。学士課程を終えて試験に合格し、論文を提出すると、法学士の称号を得ることができた。では、具体的なカリキュラムを確認したい。

JUNIOR YEAR.

FALL TERM—Recitations: Elementary Law, Prof. Robinson; Torts, Prof. Platt; International Law, Mr. Woolsey. Lectures: Nature and History of American Law, and Wills, Prof. Baldwin; Origin of Law, and Nature of Legal Authority, Prof. Robinson.

WINTER AND SPRING TERM—Recitations: Contracts, Prof. Baldwin; Mercantile Law, and Evidence, Prof. Wayland; Pleading, Prof. Platt; International Law, Mr. Woolsey. Lectures: English Constitutional Law, Prof. Wayland; General Jurisprudence, Prof. Platt; Forensic Elocution, Mr. Bailey; Oratory and Rhetoric, Prof. Robinson.

【訳文】 1年次

秋期—レシテーション：初等法はロビンソン教授、不法行為はプラット教授、国際法はウルゼイ氏。講義：自然および米国の歴史、遺言はボールドウィン教授、法律の起源および法的権限はロビンソン教授。

冬期および春期—レシテーション：契約はボールドウィン教授、商法および証拠はウェイランド教授、訴訟手続はプラット教授、国際法はウルゼイ氏。講義：英国憲法はウェイランド教授、一般法学はプラット教授、法廷弁論術はベイリー氏、雄弁および修辞学はロビンソン教授。

SENIOR YEAR.

FALL TERM—Recitations: Equity, Prof. Platt; Contracts, Prof. Robinson; Mercantile Law, Prof. Wayland. Lectures: International Law, Mr. Woolsey; Parliamentary Law and the Methods of Legislation, Judge Foster; Comparative Jurisprudence, and Roman Law, Prof. Baldwin.

WINTER AND SPRING TERM—Recitations: Contracts, Prof. Baldwin; Mercantile Law, Prof. Wayland; Real Property, Prof. Robinson. Lectures: Judicial Procedure and Practice, Judge Seymour; American Constitutional Law, Prof. Baldwin; Ecclesiastical Law, Dr. Bacon; Patent Law, Mr. Betts; Criminal Law, and Medical Jurisprudence, Prof. Robinson.²⁴

【訳文】 2年次

秋期—レシテーション：衡平法はプラット教授、契約はロビンソン教授、商法は

ウェイランド教授。講義：国際法はウルゼイ氏、議会法および立法の方法はフォスター裁判官、比較法学およびローマ法はボールドウィン教授。

冬期および春期—レシテイション：契約はボールドウィン教授、商法はウェイランド教授、不動産はロビンソン教授。講義：裁判手続および実務はシーモア裁判官、米国憲法はボールドウィン、教会法はベーコン師、特許法はベッツ氏、刑法および医事法学はロビンソン教授。

相馬の日記には、9月17日に1年生の国際法に出席したとあるので、ウルゼイ氏(Theodore S. Woolsey)による講義であろう。専任講師・ウルゼイは前学長の息子で、翌年度より国際法の教授を務めた。11月1日にも国際法の授業、12月18日には国際法の試験を受け、秋期には議会法の講義(11/14、11/21)に出席していることから、相馬が2年次の授業にも参加している様子がわかる。

冬期以降はボールドウィン(Simeon E. Baldwin, 2/2)やロビンソン(William C. Robinson, 2/5)、プラット(Johnson T. Platt, 2/14、6/6)の講義やレシテイションに参加しているが、学士課程担当に名前のないウィーラー(2/8)やサムナー(2/14、5/13、5/20)の名前も日記に登場していることから、相馬は法学科大学院課程または他学科の授業にも参加していたと推測できる。各教授については次章で詳述する。

法学科の大学院は2年制で、入学資格は他の法律学校を卒業して法学士の称号を持つ者である。1年目は法学修士課程に在籍し、最終的な試験に合格すると法学修士の称号が贈られ、2年目の法学博士課程も同様である。1年目のカリキュラムは特に学士課程の補完を目的とし、2年目に実践的な弁護士に必要なテーマに縛られることなく、教育を完了する手段として、法学および関連学問の連携を目指す人たちの希望に応えるよう設定されていた。法学修士課程および法学博士課程のカリキュラムは以下の通りである。

FOR CANDIDATES FOR THE DEGREE OF M.L.—Administration of Estates, Prof. Wayland; English Constitutional History, Prof. Wayland and Prof. Wheeler; Maritime and Admiralty Law, and Patents, Prof. Robinson; Practice in the U. S. Courts, Railroad Law, and American Constitutional History, Prof. Baldwin; General Jurisprudence, Corporations, and Procedure in States having a Civil Code, Prof. Platt; Roman Law, Mr. A. S. Wheeler; International Law, Prof. Sumner.

【訳文】法学修士課程—遺産管理はウェイランド教授、英国憲法の歴史はウェイランド教授とウィーラー教授、海法および特許はロビンソン教授、合衆国裁判所での実務と鉄道法、米国憲法の歴史はボールドウィン教授、一般法学と株式会社、民法を有する州における手続はプラット教授、ローマ法はウィーラー教授、国際法はサ

ムナー教授。

FOR CANDIDATES FOR THE DEGREE OF D.C.L.—Ethics, President Porter; Parliamentary Law, and Hermeneutics, Prof. Wayland; Early History of Real Property, Patent Cases, and Canon Law, Prof. Robinson; Conflict of Laws, Comparative Jurisprudence, Political History, and Roman Law, Prof. Baldwin; General Jurisprudence, and Principles of Legislation, Prof. Platt; Roman Law, Mr. A. S. Wheeler; Relations of Physical Geography to Political History, Prof. Brewer; Political Economy, Prof. Walker; Sociology, Prof. Sumner.²⁵

【訳文】法学博士課程—倫理はポーター学長、議会法と解釈学はウェイランド教授、不動産の初期の歴史と特許事件と教会法（カノン法）はロビンソン教授、法学論争と比較法学と政治史とローマ法はボールドウィン教授、一般法学と立法の原則はプラット教授、ローマ法はA. S. ウィーラー氏、自然地理学と政治史の関係はブリューワー教授、政治経済学はウォーカー教授、社会学はサムナー教授。

1877年に入学した三浦は、翌年6月26日に法学修士（Master of Laws, M. L.）の学位を取得し、博士課程に進んだ。しかし、「父博房を失つて以来とかく勝れぬ健康に加へて、熱心な研究の疲労が漸く現れたものか、恰もこの頃鳩山は脳病に罹つて来た」²⁶ために、1年で修得すべき博士課程を2年に分割してもらう許しを得て、1880年7月1日に法学博士（Doctor of Civil Law, D. C. L.）の学位を贈られることとなった。

なお、相馬はたびたび図書館に通っている。とりわけ、裁判所の建物内に設置されていた法学科の特別図書館は約8,000冊の蔵書に加え、英国・米国・アイルランド各国の判例報告、法学・政治学・哲学に関する資料の膨大なコレクションを有し、相談室には法学雑誌も備えられていた。学生たちは無料で一般の大学図書館の本も利用する事ができ、そこにはさらに10万冊を越える図書の所蔵がある。イエール大学図書館には「ジャパノロジスト」として知られたヴァンネーム（Addison VanName）が勤務しており、相馬の日記からも日本人留学生とたびたび交流している様子がみられる²⁷。

9. 哲学文学科大学院のカリキュラム

1878年（明治11）6月、田尻と相馬、そして松井直吉は哲学文学科の大学院生（Graduate Students）として登録された。この年の学生数は45名で、コロンビア法律学校を卒業した相馬を含めて他大学出身者が16名と約3分の1にのぼる。松井は1857年（安政4）大垣藩出身で、三浦と同じく1875年第1回文部省留学生として渡米し、コロンビア鉱山学校を卒業して哲学士（Bachelor of Philosophy, PH. B.）の称号を取得していた。

『要覧』によれば、大学院の入学資格はイエール大学学部または他大学の卒業生および

リベラル教育を受けた18歳以上とある。執務委員会 (Executive Committee) が学生の総括監督を担当し、彼らが本学科での指導を希望する者の名前を受け取り、判断し、提示された研究課程について認可し、条件や期間などの情報を与えるとされた。指導は講義もあれば、レシテーション、口述・筆記による議論、読書指南、研究所や法律文書における作業などによりもたらされる。

大学院の学事暦は基本的に学部準じており、この年の1学期は1878年9月12日から12月19日、3週間の冬期休暇をはさんで、2学期は1879年1月9日から6月26日の卒業式までとなり、4月9日から16日までは春期休校である。

哲学博士 (Doctor of Philosophy, PH. D.) は、学士の称号を取得したのち少なくとも2年以上この学科で学んだ者で、最終試験に合格し、該当分野において納得のできる研究論文を提出しなければならない。いずれにせよ、ラテン語、ギリシャ語、フランス語の知識が必要とされた。修士号 (Master of Arts, M. A.) は基本的に2年間学士を維持し、最初に称号を取得してからリベラル研究における進展の証明が学科教員陣に提出された者に与えられた。

この年の専攻コースは、Intellectual Philosophy (理論哲学)、Political Science and History (政治学・歴史学)、Philological Science; Literature (言語学・文学)、Mathematics (数学)、Physics; Chemistry; Astronomy (物理学・化学・天文学)、Geology; Natural History (地質学・自然史)、Applied Science (応用科学)、Fine Arts (美術) の8つ。ここでは、田尻と相馬が専攻したと考えられる政治学・歴史学専攻のカリキュラムを確認する。

2. *Political Science and History.*

Professor WHEELER: History of England to Henry VII.

Professor BREWER: Relations of Physical Geography to Political History.

Professor WALKER: Public Finance; Statistics of Industry.

Professor SUMNER: Politics and Finance in the History of the United States; Political Science; Finance.

Professor ROBINSON: History of Real Property; Canon Law; Parliamentary Law.

Professor DEXTER: American History.

Professor BALDWIN: Conflict of Law; Comparative Jurisprudence.

Professor PLATT: General Jurisprudence.

Professor WOOLSEY: International Law.

Mr. A. S. WHEELER: the Institutes of Gaius and Justinian; select titles of the *Corpus Juris*; German text-books of Roman Law.²⁸

【訳文】 2. 政治学・歴史学

ウィーラー教授はイングランドの歴史、ヘンリー7世まで。

ブリューワー教授は自然地理学と政治史の関係。

ウォーカー教授は公共財政と産業統計。

サムナー教授は合衆国史における政治と財政、政治学、財政学。

ロビンソン教授は不動産の歴史、教会法（カノン法）、議会法。

デクスター教授はアメリカ史。

ボールドウィン教授は法学論争、比較法学。

プラット教授は一般法学。

ウルゼイ教授は国際法。

A. S. ウィーラー氏はガイウスとユスティニアヌスの研究、『法典』から題目を選択、

ローマ法のドイツ語テキスト。

ブリューワー (William H. Brewer) はシェフィールド科学学部の農学教授で、2月11日、相馬はコネティカット州ウォーリングフォード (Wallingford) で起きた竜巻に関する講義を聞き、大変面白かったとして、2月14日、3月6日、7日、28日とブリューワー教授の講義に参加している。ウォーカー (Francis A. Walker) は政治経済学と歴史学、ロビンソンは初級法学・刑法および不動産法の教授である。前述の通り、図書館を兼務していたデクスター教授から、1879年3月、相馬らは大量の判決録を購入している。プラットは訴訟手続と衡平法学の教授で、相馬は法学科特別生のときに、しばしば同教授の授業に出席しており、帰国する前にも訪問している。

A. S. ウィーラー (Albert S. Wheeler) はドイツ語専任講師。古代ローマの法学者ガイウス『法学提要 (Institutiones)』は法学入門書として普及し、ユスティニアヌス (1世) が533年に完成した『法学提要』の基礎といわれる。カリキュラムにある「Corpus Juris」とは、ユスティニアヌスの勅命により編纂された『ローマ法大全 (Corpus Juris Civilis)』と考えられる。

相馬は大学院に入学した9月から、ボールドウィン教授のオフィスで働くこととなった。ボールドウィンは1861年にイエール大学を卒業後、法律学校に学んだ弁護士。彼とロビンソン、プラット、ウェイランドはサムナー同様に1872年、ポーター学長により教授として迎えられた教員たちである。法学科の教授に就任した4名のうち最年長で、1869年から70年にかけて副州知事を務めたウェイランド教授が学科長に就任していた。

ボールドウィン教授のもとで実務的な法律の勉強をしながらも、相馬は9月13日に田尻とサムナー教授のもとへ赴き、同教授の助言に従って学部4年生とともに政治経済学の勉強を始めることにしている。以後、サムナー教授に関係すると考えられる記録に、1学

期では「Social Statics」の授業とアメリカ政治の講義（9/30）、サムナー教授の講義（11/11）、スペンサーの「Statics」のレシテーションとアメリカ政治の最終講義（12/9）、2学期に入っても、サムナー教授の授業（1/9）、サムナー教授は私たちに外国為替に関する本²⁹を買うよう勧めた（1/20）、サムナー教授の1837年恐慌に関する講義（2/13）、サムナー教授の講義が今日で終了（6/2）とあり、1年を通して参加していたことがわかる。スペンサー（Herbert Spencer）は1851年に“*Social Statics*（社会静学）”の名著を発表したイギリスの哲学者で、明治期の日本に大きな影響を与えたことでも知られる。相馬と違って田尻の学生生活に関する記録は残されていないが、前章でみたように、法学科でのサムナー教授は国際法や社会学を担当していたのに対し、哲学文学科大学院では政治学・財政学といった、田尻の興味に近い学問分野を担当していた。

田尻は約5年間のイエール大学生活を終え、1879年8月に帰国、相馬も同月サンフランシスコを出発し、9月14日、文部省の留学生監督として渡米していた目賀田種太郎とともに横浜に到着した。1877年1月にシェフィールド科学学部に入転入学して動物学を学び、1879年6月に卒業した箕作佳吉はジョンズ・ホプキンス大学（Johns Hopkins University）に移り、入れ替わりに科学学部に入転したのが、旧岸和田藩13代当主の岡部長職である³⁰。

おわりに

本稿では、田尻稲次郎を中心に、明治初期にイエール大学に留学していた日本人学生たちが、どのようなカリキュラムで授業を受けていたのかについて、同大学が所蔵する資料を用いて考察した。南北戦争を経たアメリカでは、選択科目制度という大学教育の大きな転換期を迎えており、イエール大学もまた、古いカレッジからユニヴァーシティに改革されつつある時期であった。

1874年（明治7）に田尻が学部に入転した際の試験には、ラテン語・ギリシャ語・算数の3科にリベラル・アーツを加えた科目が必要とされた。入学後も合理的な考え方を重視するための数学や古代言語を中心としたカリキュラムが組まれていたが、3年生に進級した1876年より2学期制と選択科目制の導入が始まった。3年生の必修科目には2年生までと異なる近代言語や自然科学が用意され、古代言語や数学は選択科目となった。更に4年生では、選択できる科目が広範囲に設定され、より学生の嗜好や将来就く可能性の高い職業を視野に入れた教育を受けることができるようになったのである。

田尻の7年後輩となる1885年の卒業生は、古典科目からサムナー教授が担当するレシテーションの授業に赴くと、そこでは講義と簡単な口頭試問が半分ずつ行われ、それは新しく広い世界への導きとなり、土地や人口、資本通貨、銀行、税金、経済史、政治学などを探索することができたという。大学入学前より古典科目を中心に学び続けていた学生

にとって、サムナーが語る実社会に通じる社会科学のトピックはことのほか新鮮に映ったのである。彼は説明のために新聞の論説やニュースを用いて、けっして自由な議論を制止することはなく、学生たちに自分たちが重要な問題について厳しい現実を学んでいることを気付かせた。

田尻もまた、入学当初よりレシテイションの授業などにおいてサムナー教授の教えを受けていたとも考えられるが、4年生の必修科目に政治学が用意され、選択科目制度によりサムナーの政治経済学を本格的に履修できるようになった時期に、自叙伝にも「処が法律をやる人は日本人中に中々多い、来る者は皆之をやる、鳩山氏抔も其連中だ」³¹とあるように、コロンビア法律学校を卒業した三浦や相馬がイエールにやってきた。また、「教授」であることの義務に対して忠実に尽くし、教育に多大なる力を注いだサムナーは、とりわけ大学院生に対しては大変有益な指導者であり、独断的ではなく、けっして問題を解決することを厭なかったという。田尻が留学の目的を法律から経済に変更し大学院に進んだことには、イエール大学のカリキュラム改革に加えて、サムナー教授の実社会を重視する教育者としての姿勢が影響していたと考えられるのではないだろうか。

留学を終えて帰国後、日本で経済と法律を同時に教授する学校を設立し、さらに日本の財政学を築き上げることとなる田尻が、イエール大学で何を学んでいたのか、田尻の生涯について考える際の一助となれば幸いである。

注

- 1 イェール大学がユニヴァーシティ（Yale University）を名乗るのは、1887年のことである。
- 2 *Catalogue of the Officers and Students in Yale College, 1875-76*. New Haven: Tuttle, Morehouse & Taylor, Printers, 1875, p.53
- 3 以下、古代ギリシャおよび古代ローマの人名・作品名については、『集英社世界文学大事典』（集英社、1996-1998年）、松原国師『西洋古典学事典』（京都大学学術出版会、2010年）などを参考に、現在普及すると考えられる表現に改めた。
- 4 大矢真一「Davies, Peck “Dictionary of Mathematics” と藤沢利喜太郎『数学用語・英和对訳字書』」（『富士論叢』第21巻第2号、1976年11月）
- 5 *Catalogue of the Officers and Students in Yale College, 1876-77*. New Haven: Tuttle, Morehouse & Taylor, Printers, 1876, p.53
- 6 ガノーおよびバーカーについては、岡本正志「旧制第三高等学校の明治期物理書」（『学術の動向』140号、2007年11月）参照。
- 7 井上琢智『ジェヴォンズの思想と経済学 科学者から経済学者へ』（日本評論社、1987年）、pp.i-vi
- 8 *Yale College in 1876*, June 1, 1876. pp.4-5
- 9 前掲*Catalogue, 1876-77*, p.55
- 10 F. ルドルフ著、阿部美哉・阿部温子訳『アメリカ大学史』高等教育シリーズ120（玉川大学出版部、2003年）、p.275。原著は“*The American College and University*”, The University of Georgia Press, 1962。
- 11 前掲『アメリカ大学史』、pp.273-289。
- 12 *Yale College in 1877*, June, 1877. p.4
- 13 *Catalogue of the Officers and Students in Yale College, 1877-78*. New Haven: Tuttle,

- Morehouse & Taylor, Printers, 1877, p.4
- 14 前掲*Catalogue, 1877-78*, p.55
 - 15 Brooks Mather Kelley, *Yale a History*, Yale University Press, 1974, pp.244-245
 - 16 専修大学の前身・専修学校において、本書を原典とする教科書（英国フォセット氏原著・中隈敬三先生講述『経済原論 全』1884年）を発行している。
 - 17 シュヴェーグラウ著、谷川徹三・松村一人訳『西洋哲学史』上巻（岩波書店、2007年）
 - 18 穂積陳重『法窓夜話』（1916年、有斐閣）、p.178
 - 19 前掲*Catalogue, 1877-78*, p.56
 - 20 田尻稲次郎訳『ボリユー氏財政論 関税ノ部』1880年、緒言。同書は専修学校経済科で田尻が使用した教科書で、日本に初めてボリユーを紹介した。
 - 21 W. G. サムナー著、青柳清孝・園田恭一・山本英治訳『フォークウェイズ』現代社会学大系第3巻（青木書店、1975年）ほか、サムナーについては『社会進化論』アメリカ古典文庫18（研究社出版、1975）、Bruce Curtis, *William Graham Sumner*, Twayne Publishers, 1981、前掲*Yale a History*, pp.233-366を参考にした。
 - 22 『北雷田尻先生伝』上巻（田尻先生伝記及遺稿編纂会、1933年）、p.402
 - 23 「相馬永胤日記」1877年、専修大学所蔵。「相馬永胤家文書」の一部に1876年から1924年までの日記が残され、一部は『専修大学史紀要』第4号（2012年3月）、第5号（2013年3月）、第8号（2016年3月）、「相馬永胤家文書の基礎的研究—私立学校創立者の多面的分析のためのアプローチ—課題番号25370792 平成25年度～平成27年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書」（研究代表者大谷正、2016年3月）に翻刻されている。以下、相馬および周辺人物に関する記述は日記、専修大学相馬永胤伝刊行会編『相馬永胤伝』（専修大学出版局、1982年）に依拠した。
 - 24 前掲*Catalogue, 1877-78*, p.86
 - 25 前掲*Catalogue, 1877-78*, p.87
 - 26 鳩山春子編『鳩山の一生』（1929年）、p.29
 - 27 当時のニューイングランドにおける日米交流については、塩崎智『アメリカ「知日派」の起源 明治の留学生交流譚』（平凡社、2001年）に詳しい。また、日米中交流に関する研究に、容應英「19世紀後半のニューヘイブンにおける日米中異文化接触」（『アジア研究』vol.62, No.2、2016年4月）がある。
 - 28 *Catalogue of the Officers and Students in Yale College, 1878-79*. New Haven: Tuttle, Morehouse & Taylor, Printers, 1878, p.48
 - 29 日記にある「a book (Gorton's on Foreign Exchange)」とは、イギリスの政治家・ゴーシェン (George Goschen) の "*The Theory of Foreign Exchanges (1861)*" と推測できる。帰国後、田尻は専修学校の講義で同書を用いていた（英国ゲーゼン氏原著・日本田尻稲次郎先生講述『外国為換論 全』専修学校、1882年）。
 - 30 箕作については玉木存『動物学者箕作佳吉とその時代—明治人は何を考えたか』（三一書房、1998年）、岡部については小川原正道『評伝岡部長識—明治を生きた最後の藩主』（慶應義塾大学出版会、2006年）参照。
 - 31 前掲『北雷田尻先生伝』上巻、p.189

表：明治初期のイエール大学日本人留学生一覧（改訂版）

	所属	学年	氏名	出身地	住所
1872～1873年（明治5～6年）					
山川健次郎	科学	1年生	Kenjiro Yamagawa	Japan	11 Grove st.
津田 静一	科学	特別生	Sayeach Tsuda	Kumamoto, Japan	138 College st.
〃	美術	—	〃	〃	〃
1873～1874年（明治6～7年）					
山川健次郎	科学	2年生	Kenjiro Yamagawa	Japan	29 Prospect st.
岩男 三郎	科学	1年生	Saburo Iwao	Kumamoto, Japan	84 wall st.
1874～1875年（明治7～8年）					
山川健次郎	科学	3年生	Kenjiro Yamagawa	Japan	29 High st.
赤羽 四郎	科学	1年生	Shiro Akabane	Yedo, Japan	29 Prospect st.
田尻稲次郎	学部	1年生	Inajiro Tanaka Tajiri	Kagoshima, Japan	139 Greene st.
島津 忠亮	哲文	特別生	Matanosin Tadaakira Shimadz	Yedo, Japan	172 George st.
1875～1876年（明治8～9年）					
田尻稲次郎	学部	2年生	Inajiro Tanaka Tajiri	Kagoshima, Japan	217 Crown st.
津田 純一	哲文	特別生	Junichi Tsuda	Nakatsu, Japan	173 Temple st.
1876～1877年（明治9～10年）					
田尻稲次郎	学部	3年生	Inajiro Taneka Tajiri	Kagoshima, Japan	6 Trumbull st.
津田 純一	法学	1年生	Junichi Tsuda	Japan	6 Trumbull st.
1877～1878年（明治10～11年）					
田尻稲次郎	学部	4年生	Inajiro Taneka Tajiri	Kagoshima, Japan	6 Trumbull st.
相馬 永胤	法学	特別生	Nagatani Soma, LL.B. Columbia College	Japan	201 Orange st.
三浦 和夫	法学	大学院 (1年)	Kazuo Miura, LL.B. Columbia College	Tokio, Japan	200 East Grand st.
箕作 佳吉	科学	2年生	Kakichi Mitsikuri	Tokio, Japan	523 Chapel st.
1878～1879年（明治11～12年）					
松井 直吉	哲文	—	Nawokichi Matsui, PH.B. Columbia College	Tokio, Japan	59 Wall st.
田尻稲次郎	哲文	—	Inajiro Taneka Tajiri, B.A.	Kagoshima, Japan	59 Wall st.
相馬 永胤	哲文	—	Nagatane Soma, LL.B. Columbia College	Japan	201 Orange st.
三浦 和夫	法学	大学院	Kazuo Miura, LL.B. Columbia College M.L., Attorney at Law	Tokio, Japan	200 East Grand st.
箕作 佳吉	科学	3年生	Kakichi Mitsikuri	Tokio, Japan	130 York st.
1879～1880年（明治12～13年）					
鳩山 和夫	法学	大学院	Kazuo Hatogama (late Miura), LL.B. Columbia Coll., M.L., Attorney at Law	Tokio, Japan	200 East Grand st.
岡部 長職	科学	1年生	Nagamoto Okabe	Tokio, Japan	6 Trumbull st.

※*Catalogue of the Officers and Students in Yale College*に掲載された各科の学生名簿を基に作成した。
 ※学科欄の略字は、哲文＝哲学文学科大学院、学部＝同学部、科学＝シェフィールド科学学部、美術＝美術学部、法学＝法学科を意味する。